

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: 水酸化ニッケル(II)

製品番号(SDS NO): D003670-1

供給者情報詳細

供給者: 国産化学株式会社

住所: 東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署: 品質保証部

電話番号: 045-328-1715

FAX: 045-328-1716

e-mail address: cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先: 国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分 3

急性毒性(吸入): 区分 4

呼吸器感作性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

発がん性: 区分 1A

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

飲み込むと有毒

吸入すると有害(気体、蒸気、粉じん及びミスト)

吸入するとアレルギー、ぜん息または、呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

発がんのおそれ

注意書き

安全対策

使用前に取扱い説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護手袋を着用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

指定された個人用保護具を使用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

- ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。
- 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
- 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 口をすすぐこと。
- 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。

貯蔵

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

混合物/単一化学物質の選択:

化学物質

化学的特定名: 水酸化ニッケル(II)

慣用名、別名: 水酸化第一ニッケル

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化学式
水酸化ニッケル	-	12054-48-7	1-417	H2NiO2

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

水酸化ニッケル

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

水酸化ニッケル

化管法「指定化学物質」該当成分

水酸化ニッケル

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

直ちに医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

消火を行う者への勧告**特有の消火方法**

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

粉じんが飛散しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い****技術的対策**

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

局所排気、全体換気

排気/換気設備を設ける。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

粉じんの堆積を防止する。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件**適切な保管条件**

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置**管理指標****管理濃度**

作業環境評価基準(2009) $\leq 0.1\text{mg-powder Ni/m}^3$

許容濃度

日本産衛学会(2011) 0.1(不溶性化合物)mg-Ni/m³

ACGIH(1996) TWA: 0.1mg-Ni/m³(I) (肺障害; 鼻癌)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：粉末

色：淡緑色

臭い：知見なし

pH：知見なし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

融点/凝固点：230°C

分解温度：230°C

燃焼性(固体、ガス)：容易には燃焼しない

自然発火温度：400°C以上

比重/密度：4.1g/cm³

溶解度

水に対する溶解度：不溶

溶媒に対する溶解度：希酸やアンモニアに溶ける

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

熱、混触危険物質との接触。

混触危険物質

強酸、強酸化性物質

危険有害な分解生成物

ニッケル酸化物

11. 有害性情報

毒性的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50=1500 mg/kg(雄)、1700 mg/kg(雌)(ECETOC TR No.33(1989))、LD50=1600 mg/kg(PATY 5th, 2001)であることから区分4とした。

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50>2000 mg/kg(RTECS, 2008)は区分外に該当するが、区分外にするにはリスト3のデータであり他にデータがなくデータ不足で分類できない。

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

ラットLC50=1200 mg/m³(1.2 mg/L/4h)(RTECS(2008))であり、EU分類がR20に分類していることから区分4とした。

局所効果データなし

感作性

呼吸器感作性

[日本公表根拠データ]

(ニッケルまたはニッケル化合物は、日本産業衛生学会許容濃度勧告(2004)では気道感作性区分2に、MAK/BAT(2004)ではSahとされているため区分1とした。

皮膚感作性

[日本公表根拠データ]

ニッケルまたはニッケル化合物は、日本産業衛生学会許容濃度勧告(2004)では皮膚感作性区分1に、MAK/BAT(2004)ではSahに、そしてEU分類においてはR43に区分されていることから、区分1とした。

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

[日本公表根拠データ]

既存分類において、IARCがニッケル化合物をグループ1(IARC vol. 49(1990))、日本産業衛生学会が金属ニッケルを除くニッケル化合物を第1群に(産衛学会勧告(2008))、ACGIHがニッケルおよびニッケル化合物をA1(ACGIH(2008))に区分していることから区分1Aとした。ラットの筋肉内投与による影響報告が2例あり、いずれも肉腫の発生が報告されている(IARC vol. 49(1990))。なお、EU分類においては本物質をCarc. Cat 3; R40に区分している(EU-Annex I(access on 1, 2009))。

IARC-Gr.1 : ヒトに対して発がん性がある

ACGIH-A4(1996) : ヒト発がん性因子として分類できない

日本産衛学会-2B : 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質

EU-発がん性カテゴリ1A; ヒトに対する発がん性が知られている物質

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

ラットの経口投与により、ガイダンスの区分2に相当する1500 mg/kg(雄)、1700 mg/kg(雌)(ECETOC TR No. 33(1989))で不活発、運動失調、下痢の症状が見られ死亡しているが、詳細は不明であり、他にデータがなく分類できないとした。

特定標的臓器毒性(単回/反復ばく露)データなし

吸引性呼吸器有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性データなし

残留性・分解性データなし

生体蓄積性データなし

土壤中の移動性データなし
オゾン層破壊物質データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

容器等級：III

国連番号に該当しない

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則 特定化学物質 第2類 管理第2類

水酸化ニッケル

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

水酸化ニッケル

名称通知危険/有害物

水酸化ニッケル

化学物質管理促進(PRTR)法

特定第1種指定化学物質

水酸化ニッケル92%

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

水酸化ニッケル

大気汚染防止法

有害大気汚染物質/優先取組(中環審第9次答申)

水酸化ニッケル

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

水質汚濁防止法

指定物質

水酸化ニッケル

法令番号 45

適用法規情報

労働基準法:疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)

輸出貿易管理令別表第1の16の項に該当。

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)
2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)
2017 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
JIS Z 7253 (2012年)
JIS Z 7252 (2014年)
2016 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。